

「アメリカ合衆国を調べよう」 ～地図帳の図版を活用した「調べ学習」の展開例～

兵庫県姫路市立夢前中学校 黒田裕治

はじめに

本稿は地理教科書初訂版の「2部3章 世界の国々を調べよう」の「アメリカ合衆国」の授業展開例である。平成21年度から23年度における移行措置期間においても、必習の単元であり、指導内容に大きな変化があるわけではない。ただし、新学習指導要領において、「3 内容の取り扱い」に、「(1)世界の様々な地域」を学習してから、「(2)日本の様々な地域」扱うことが明記されている点を留意しなければならない。また、「3 内容の取り扱い」(2)のアに以下の記述がある。

地理的な見方や考え方や地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることができるよう系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分活用すること。…略

これを受けて、今回は、教科書の図版と地図帳*を多く活用し、地理的事象を多面的・多角的に考察するとともに適切に表現する能力や態度を育てる授業展開例を提案する。

(*「中学校社会科地図 初訂版」をさす)

2 単元の構成について

第1時	<p>【世界に広がる生活や文化】</p> <p>①小学校での学習を振り返る。</p> <p>②アメリカ合衆国について知っている事柄を話し合う。</p> <p>③世界に広がる生活や文化を発表する。</p>
第2時	<p>【アメリカ合衆国の成立と住民】</p> <p>①アメリカ合衆国成立の過程を調べる。</p> <p>②国土拡大の経緯を調べる。</p> <p>③多様な移民の種類と規模を調べる。</p> <p>④住民内訳と居住地域の特色を調べる。</p>
第3時	<p>【アメリカ合衆国の農業】</p> <p>①気候の特色を、日本と比較しながら調べる。</p> <p>②農産物と農業地域について調べる。</p> <p>③小麦と米の栽培地域について調べる。</p> <p>④大規模な農業経営について、日本と比較しながら調べる。</p>
第4時	<p>【アメリカ合衆国の工業】</p> <p>①五大湖周辺の工業について調べる。</p> <p>②最先端工業の分布について調べる。</p> <p>③世界に進出する、アメリカ合衆国の企業について調べる。</p>
第5時	<p>【日本との結びつき】</p> <p>①日本との貿易品目について調べる。</p> <p>②生活・文化の交流について調べる。</p> <p>③日本企業のアメリカ合衆国への工場進出と、貿易の課題について調べる。</p>

以上の5時間で構成する。

3 学習の展開

第1時 【世界に広がる生活や文化】

- ①小学校での学習を振り返らせる。
ア. 国旗の意味について発表させる。



- ・赤と白の線の意味
- ・星の数の意味
- ・独立当初の星の数

← 合衆国の国旗(黒板に掲示する)
地図帳p.50

イ. 「多民族の国」といわれる理由を考え発表させる。

- ・白人や黒人 ・先住民や移民
- ②アメリカ合衆国について、教科書p.113左の図版「折りこみ10」を見て想起することを自由に発表させる。
 - ・自由の女神 ・ハリウッド映画
 - ・テーマパーク ・ファーストフード
- ③世界に広がる生活や文化について、発表させる。
 - ・コンピュータ関連の会社は？
 - ・清涼飲料水やファーストフードの会社は？
 - ・野球、バスケットボールなどのプロスポーツ

【評価】

- ①国旗の意味と、多民族の国であることが理解できたか。
- ②③身のまわりに、合衆国と関連の深い生活・文化が多いことを理解できたか。

第2時 【アメリカ合衆国の成立と住民】

- ①アメリカ合衆国建国までの歴史を、地図帳p.50の①の資料「アメリカ合衆国の歴史」で調べさせる。

- ②アメリカ合衆国拡大の経緯を地図帳p.50の地図A「国の成立と移民」で調べさせる。



地図帳p.50 国の成立と移民

- ・1776年の建国13州から1898年のハワイ併合までの過程を調べて発表させる。
- ・「フロンティア精神」という言葉の意味を予想させ、発表させる。

- ③④多様な移民の種類と規模を、地図帳p.50の地図B「アフリカ系とヒスパニックの居住地域」および、帯グラフC「住民の内訳」で調べさせる。



地図帳p.50 アフリカ系とヒスパニックの居住地域

- ・アフリカ系やヒスパニックが10%を越える地域を確認させる。
- ・「アメリカインディアン」の居住地域が、内陸部に点在していることを発見させる。
- ・古い西部劇の映画では、「アメリカインディアン」が白人側から低く見られていたが、最近「ネイティブアメリカ

ン」として、敬意が払われるようになってきたことも伝えたい。



地図帳p.50 住民の内訳

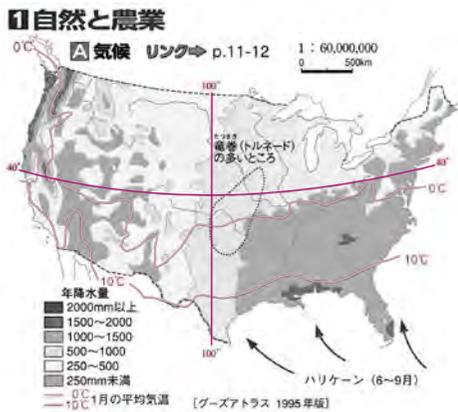
- ・白人や黒人、ヒスパニックやアジアからの移民について理解させる。
- ・「人種のサラダボウル」という言葉の意味を予想させ発表させる。

【評価】

- ①②合衆国成立と拡大の経緯が理解できたか。
- ③④多民族の国としての合衆国の特色が理解できたか。

第3時 【アメリカ合衆国の農業】

- ①気候の特色を、地図帳p.55A「気候」を調べさせ、p.11～12も参考に日本と比較させる。



地図帳p.55 気候

- ・西経100度線を境とした東西の特色に気づかせる。
- ・北緯40度線や1月の平均気温線にも着目させ、日本との比較をさせる。

- ②③農産物と農業地域や小麦と米の栽培地域について、地図帳p.55の地図B「農業地域」と、地図C「小麦と米の栽培」を調べさせる。



地図帳p.55 農業地域

- ④大規模な農業経営について、地図帳p.55の図D「大規模な農業」を見て、日本との違いを考察させる。

【評価】

- ①②③④アメリカ合衆国の農業の特色が理解できたか。

第4時 【アメリカ合衆国の工業】

- ①五大湖周辺の工業 ②最先端工業の分布について、地図帳p.56地図A「鉱工業」で調べさせる。



地図帳p.56 鉱工業

- ・五大湖周辺に多い製鉄業に必要な条件は何かを考える。
- ・「サンベルト」の意味を理解させる。
- ③世界に進出する、アメリカ合衆国の企業



地図帳p.56 アメリカ合衆国企業の海外進出

について、地図帳p.56地図B「アメリカ合衆国企業の海外進出」C「世界の巨大企業売上高」で調べる。

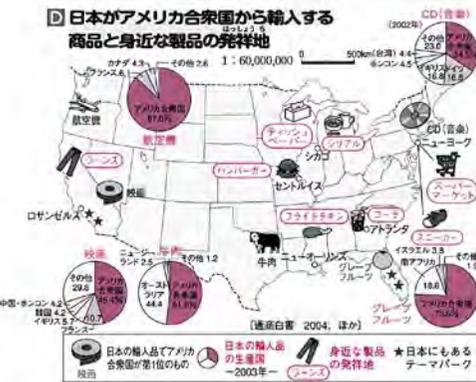
- ・「多国籍企業」について理解させる。
- ・昨今の世界的経済不況についてふれる。

【評価】

- ①②合衆国の工業の特色が理解できたか。
- ③世界経済に及ぼす影響力を理解できたか。

第5時 【日本との結びつき】

- ①日本との貿易品目について、地図帳p.57 グラフB「貿易」で調べさせる。
- ②生活・文化の交流について、地図帳p.57 地図D「輸入する商品と身近な商品の発祥地」で調べさせる。

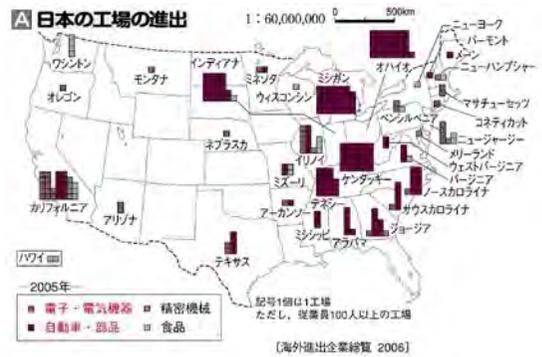


地図帳p.57 日本がアメリカ合衆国から輸入する商品と身近な製品の発祥地

- ・第1時の授業とも関連させ、身近な生活の中にあるものを想起させる。
- ・郊外の大規模店舗出店のやり方も、日本に取り入れられていることに気づかせる。
- ③日本企業の工場進出について、地図帳p.57地図A「日本の工場の進出」で調べさせる。
 - ・自動車産業や電子・電気機器などの日本企業を具体的に挙げさせ、「貿易摩擦」解消への取り組みも理解させる。

【評価】

- ①貿易の内容と課題が理解できたか。



地図帳p.57 日本の工場の進出

- ②生活や文化の密接さが理解できたか。

4 おわりに

今回の学習指導要領の地理的分野の改訂は、我々現場教師の期待に大きく応えたものになったと感じた。移行期間中において、新しい規定を柔軟に取り入れることが許容されると理解している。

地理授業の視点として、生徒に「調べ方や学び方」をつかませることは、依然として重要な柱である。つまり、地図や図版を読み取る能力は、基本的な「地理的技能」であり、この技能なくして、多面的・多角的な考察力と公正な判断力を養うことはできない。また、地図や図版から読み取ったことから、生徒は思考内容を発表したり、記述したりすることが要求される。これは、社会科における「言語力」育成の重要な習得場面となる。

そのためにも、「地図帳」を今一度見直すよい機会ではないかと考えた。豊富で多様な資料が、「地図帳」には厳選して載せてある。いわば「宝の山」である。眠っている「宝」を掘り起こし、授業に活用するか否かは教師の力量にかかっているのだと思う。